高茶屋大垣内遺跡（第７次調査）　No.3

【 めずらしい「台なし」のＳ字甕が出土しました！ 】

写真１　通常のＳ字甕（左）と「台なし」のＳ字甕（右）

今年度の高茶屋大垣内遺跡の発掘調査では、古墳時代前期（約1,700年前）の竪穴建物から完形に近い土器が多く出土しています。これらの土器を整理する中で、珍しい形のＳ字状口縁台付甕（通称「Ｓ字甕」）がみつかりました。Ｓ字甕は伊勢湾岸地域で主に使用される煮炊き用の土器で、口の部分がＳ字状に屈曲し、底に台が付くことが特徴です。

ところが、今年度の調査では台のないＳ字甕が発見されました。このような「台なし」のＳ字甕は三重県内ではほとんどみられず、大変めずらしいものです。県外に目を向けると、奈良県の纒向遺跡や東田大塚古墳から似た形の土器が出土しています。「台なし」Ｓ字甕の形や製作方法を調べることで、地域間の土器の移動や、土器製作技術のひろがりがより詳しくわかることが期待されます。

問い合わせ先

〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　三重県埋蔵文化財センター
担当　調査研究１課　　樋口・長谷川
電話：0596-52-7028　　FAX：0596-52-7035